

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370019

研究課題名(和文) 西欧十三世紀の哲学的倫理学

研究課題名(英文) Philosophical Ethics in 13th century Europe

研究代表者

周藤 多紀 (Suto, Taki)

京都大学・文学研究科・准教授

研究者番号：50571733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：十三世紀後半にオックスフォード大学学芸学部で書かれたとみられる、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』第一巻についての、二つの注解書を校訂した。そのうちの一つ、逸名氏の『ウスター倫理学注解問題集』(ms. Worcester Cathedral Library Q.13)とその解説を欧文雑誌で公表した。もう一つの、ヨハネス・ディンステールの『倫理学注解問題集』第一巻を、現存する三つの写本に基づいて校訂し、解説を加えて報告書冊子を作成し、関係研究者に配布した。

研究成果の概要(英文)：I edited two commentaries on Book One of the Nicomachean Ethics written in the Faculty of Arts at the University of Oxford in the late 13th century. One is anonymous of Worcester's Questions on Ethics (ms. Worcester Cathedral Library Q.13). I published an edition with an introduction to this work in Archives d'Histoire Doctrinale et Littéraire du Moyen Âge. The other, John of Dinsdale's Questions on Ethics, was edited based on the three existing manuscripts. Together with an introduction to this work I made a booklet and distributed copies to researchers in this field.

研究分野：西洋中世哲学史

キーワード：哲学的倫理学 十三世紀 学芸学部 オックスフォード大学 アリストテレス

1. 研究開始当初の背景

私は平成 24 年からウスター司教座聖堂図書館所蔵の写本 (Q.13) に含まれる『ニコマコス倫理学』の注解書 (以下で『ウスター倫理学注解』と呼ぶ) の書写・校定の作業を開始し、内容の分析を行ってきた。『ウスター倫理学注解』は、先行研究で言及されたことすらない、著者不明の『ニコマコス倫理学注解』であったが、写本の筆記者の経歴や注解のスタイル・内容から、十三世紀後半に、おそらくオックスフォード大学学芸学部で書かれた作品だと推定される。私は、『ウスター倫理学注解』の研究を通して、十三世紀の『ニコマコス倫理学』注解の多くが未だ公刊されていないこと、とりわけオックスフォード大学学芸学部で書かれた『ニコマコス倫理学』注解の校訂と研究がまったくすすんでいないことを知った。本研究は、十三世紀後半にオックスフォードで書かれたと推測される、未刊の二つの『ニコマコス倫理学注解』の校訂版を作成・公表することで、その未開の領域を開拓することを目指した。

2. 研究の目的

十三世紀、大学制度の確立とアリストテレスの著作及びギリシア語・アラビア語で書かれたアリストテレス注解書の翻訳の普及によって、西洋の知のあり方は大きく変化した。本研究は、哲学的倫理学にかんして、その変容を解明することを目的としていた。

具体的には、十三世紀にアリストテレスの『ニコマコス倫理学』がどのように受容されたかを、当時書かれた同書の注解書をもとに明らかにすることを計画した。とりわけ、写本でしか読むことができず、ほとんど研究されてこなかったオックスフォード大学で書かれた『ニコマコス倫理学』注解書に焦点をあて、注解書の第一巻の校訂版を作成して、その内容を明らかにすることを目標とした。

3. 研究の方法

西洋で十三世紀に生じた倫理思想上の変化の特徴を理解するために、西洋十二世紀の倫理学にかんする理解を二次文献と原典をもとに深めた。

十三世紀から十四世紀初頭に書かれた『ニコマコス倫理学』の注解書の序文と第一巻の注解を読解・分析し、各注解者が倫理学の主題や方法・目的をどのように捉えていたかを考察した。

校定されているテキストだけではなく、未公開資料 (写本) を読解し、未公開資料の一部については校定版を作成した。とくに校定版作成がすすんでいない、オックスフォード大学学芸学部で執筆されたと推測される、二つの『ニコマコス倫理学注解問題集』の校訂版の作成・公表を行い、並行して研究論文を執筆・出版した。

4. 研究成果

(1) 『ウスター倫理学注解』を校訂し、フランスで出版されている中世哲学研究雑誌 *Archives d'Histoire Doctrinale et Littéraire du Moyen Âge* で発表した。出版にあたっては、同書の内容の特徴についての解説 (英文) を加えた。解説では、同時代のパリ大学学芸学部教師の『ニコマコス倫理学注解』、アルベルトゥス・マグヌスの『ニコマコス倫理学注解』、トマス・アクィナスの『ニコマコス倫理学注解』および『神学大全』の同作品への影響を明らかにした上で、同作品の著者が十三世紀後半の逸名のオックスフォード大学学芸学部教師であると結論づけた。

(2) 十三世紀後半から十四世紀初頭にかけての西洋における幸福概念について、西日本哲学会大会での招待講演 (シンポジウム) で発表した。アルベルトゥス・マグヌスの『ニコマコス倫理学注解』での幸福概念を軸として、その後の幸福概念の展開について、十四

世紀のパリ大学学芸学部教師ラドルフス・ブリトの幸福論と、十四世紀にパリとドイツで活躍した神学者・神秘主義者のエックハルトの幸福観に焦点をあてて論じた。ラドルフス・ブリトの幸福論を論じるにあたっては、公刊されているラドルフス・ブリトの『ニコマコス倫理学注解問題集』を読解・分析した。

(3) ヨハネス・ディンスデールの『ニコマコス倫理学注解問題集』の第一巻の校訂版を作成した。

現存する三つの写本(ケンブリッジ、オックスフォード、ダラム)の画像に基づいて、テキストの書写を行い、内容を比較して、ケンブリッジ写本が最も信頼性が高いと判断した。オックスフォード写本は、ケンブリッジ写本に近いが、不要な追加も多い。同作品について最も古い写本とされてきたダラム写本は、省略記号が多用されており、基本的な読みを確定するのに適当ではない。以上のような理由から、ケンブリッジ写本を基本テキストとし、オックスフォード写本ついでダラム写本のテキストを補足的に用いて校訂版テキストを作成した。校訂版作成の技術については、数々の校訂版作成の経験を持つ Sten Ebbesen 教授に助言を受けた。

現存する三つの写本(ダラム、ケンブリッジ、オックスフォード)を現地調査し、写本の状態を確認し、入手したマイクロフィルムの画像では読みとることのできない部分の読みを確定した。

同作品を執筆するにあたって、ヨハネス・ディンスデールが典拠とした資料を明らかにした。同作品の中で典拠とされている、アリストテレスやアヴェロエスの作品の箇所を調査して明らかにした。また、典拠として挙げられてはいないが、同作品が、トマス・アクィナスの『ニコマコス倫理学注解』と『神学大全』をかなり参考にして執筆されていること、そして部分的にはアルベルトウス・マ

グヌスの『ニコマコス倫理学注解』での議論も取り入れていることを明らかにした。

「ヨハネス・ティティンザール」とも呼ばれている同書の著者の名前(出身地名)が、イギリスのダラム近郊の町ディーンズデールと推測されることを明らかにし、同書の著者名の表記を改めた。

写本の状態と、著者と著作年代の推定、哲学的内容の特徴をまとめた解説を英文で執筆した。校訂版と英文解説をまとめて報告書(冊子)を作成し、関係研究者に配布した。英文解説についてはウェブ上でも公開した。

(4) マイクロフィルムの画像をもとに、ヨハネス・ディンスデールの『ニコマコス倫理学注解問題集』の第五巻の書写を行った。オックスフォード大学図書館で写本を閲覧した際、不明な点を確認して、書写を完成させた。同時代の学芸学部教師の『倫理学注解問題集』やトマス・アクィナスの『神学大全』の問題内容と比較しながら、ヨハネス・ディンスデールの『ニコマコス倫理学注解問題集』第五巻の内容を、正義論研究会で紹介した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

周藤 多紀「哲学者と幸福 - 西洋十三世紀後半から十四世紀前半に見られる幸福論の二類系」『西日本哲学会年報』第 24 号(2016), pp.77-96. 査読無

Taki Suto, "Anonymous of Worcester's *Quaestiones super Librum Ethicorum*," *Archives d'Histoire Doctrinale et Littéraire du Moyen Âge*, tom. 82 (2015), pp.317-389. 査読有

〔学会発表〕(計 1 件)

周藤 多紀「哲学者と幸福 - 西洋十三世紀後

半から十四世紀前半に見られる幸福論の二
類系」西日本哲学会シンポジウム提題、2015
年12月6日、西南学院大学(福岡県、福岡市)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：
取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

研究会発表

周藤 多紀 「13世紀学芸学部の正義論」
第一回正義論研究会、2016年9月2日
名古屋工業大学(愛知県、名古屋市)

報告書

Taki Suto *Johannes de Dinsdale,*
Quaestiones super librum primum
Ethicorum: An Edition with an Introduction
(A Report for the project "Philosophical
Ethics in 13th century Europe" supported
by JSPS KAKENHI Grant Number JP26370019)

ホームページ等

上記の一部 "Introduction to a
Provisional Edition of John of Dinsdale's
Commentary on Book One of the *Nicomachean*
Ethics" を以下のウェブサイトで公開して
いる。

[https://sites.google.com/site/takisuto/
sources](https://sites.google.com/site/takisuto/sources)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

周藤 多紀 (SUTO Taki)
京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号：50571733

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし

(4) 研究協力者

Sten Ebbesen (コペンハーゲン大学、デンマ
ークロイヤルアカデミー)